

問1 パキスタンにおけるサッカーボールの製造現場などで発生していた、子どもたちが学校に通えず労働に従事させられる「児童労働」の問題を解決し、生産者が公正な対価を得られるようにするための活動を何といたしますか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. フェアトレード 2. エコツーリズム 3. モノカルチャー経済 4. 資源ナショナリズム

問2 海洋プラスチックごみが地球規模の環境問題となっている背景とその対策について、適切な説明を述べているものはどれですか。（2020年 茨城県公立入試 類似）

1. プラスチックは自然分解されるまでに膨大な時間を要するため、レジ袋の削減やマイボトルの使用など、プラスチックごみを減らす行動が求められている
2. プラスチックは海水中ですぐに自然分解されるため、生態系への影響を最小限に抑えるには、特定の海域に投棄を限定することが対策となる
3. 海洋プラスチックごみは海流に乗らず特定の場所に留まる性質があるため、流出源となった国々が清掃活動を行うだけで解決できる
4. 2050年にはプラスチックが自然に消滅すると予測されているため、現在は使い捨て製品の利便性を優先し、特別な対策を講じる必要はない

問3 地球温暖化の仕組みと、近年の国際社会における状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 山口公立入試 類似）

1. 二酸化炭素などの排出が増えることで、地表からの熱が宇宙へ逃げにくくなり、地球全体の気温が上昇する現象を指す。
2. エアコンの冷媒などに使われる物質が大気中に放出され、紫外線を遮る層を破壊することで、地表の温度が急激に上昇する。
3. 工場や自動車から排出される排ガスが雨に溶け込み、強い酸性を示すことで、気温の上昇とともに森林を枯死させる。
4. 熱帯林の伐採が進むことで、植物による光合成の働きが活発になり、結果として大気中の二酸化炭素が急増する。

問4 火力発電は、電力需要の変化に応じて発電量を柔軟に調整できるという利点がある一方で、地球環境への影響という面で大きな課題を抱えています。その課題の内容として最も適切なものはどれですか。（2019年 奈良公立入試 類似）

1. 石炭や石油などの化石燃料を燃焼させる際に、大量の二酸化炭素を排出すること
2. 天候や時間帯によって発電量が左右されるため、安定した電力供給が難しいこと
3. 発電の過程で放射性廃棄物が発生し、その最終処分場の確保が困難であること
4. 燃料が自然界に無限に存在するため、資源の枯渇を心配する必要が全くないこと

問5 大気中に含まれる二酸化炭素などの気体は、地表から放射される熱を吸収して大気を暖める性質を持っています。このような性質を持つ気体の総称として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2015年 岡山公立入試 類似）

1. 温室効果ガス 2. オゾン層破壊物質 3. 酸性雨原因物質 4. 光化学スモッグ

問6 かつて開催された国際的なスポーツ大会において、市民が提供した小型家電から回収された金属を使用してメダルが作られたプロジェクトがありました。このような活動が行われる主な背景として最も適切なものはどれですか。（2023年 滋賀公立入試 類似）

1. 限られた資源を有効活用し、環境負荷を抑えた持続可能な社会を目指すため。
2. 日本国内の陸地には金属資源が全く存在しないため、廃棄物に頼るしかないから。
3. 海外からの輸入を一切停止し、すべての工業製品を国内資源のみで作るため。
4. 海底にある未知の資源を採掘する技術が未熟であり、開発が禁止されているから。

問7 「南南問題」が深刻化している背景を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 島根公立入試 類似）

1. 資源価格の高騰や工業化の進展により、一部の発展途上国が急速な経済成長を遂げた一方で、開発が遅れた後発開発途上国との差が広がったため。
2. 先進国による政府開発援助（ODA）が特定の発展途上国だけに集中し、その他の国々への支援が完全に打ち切られたため。
3. すべての発展途上国が工業化に成功し、特定の一次産品の輸出に頼るモノカルチャー経済から完全に脱却したため。
4. 先進国と発展途上国の経済格差が解消された結果、発展途上国同士による資源の奪い合いが激化したため

問8 地球温暖化対策に関する国際的な取り決めの変遷をまとめた資料において、京都議定書とパリ協定の大きな違いを説明した文として、最も適切な記述を選びなさい。（2022年 長野県公立入試 類似）

1. 京都議定書は世界全ての国に削減義務を課したが、パリ協定では先進国のみがその義務を負うことになった。
2. 京都議定書は先進国にのみ削減義務を課していたが、パリ協定では発展途上国を含む全ての締約国が削減目標の作成・維持を義務付けられた。
3. 京都議定書は熱帯雨林の保護を主目的としていたが、パリ協定は二酸化炭素の排出削減に特化した内容となっている。
4. 京都議定書は経済発展を優先する発展途上国を除外していたが、パリ協定では排出量が多い一部の国々のみに法的拘束力を持たせた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 フェアトレード	かつてサッカーボールの縫製作業などで深刻な社会問題となっていた児童労働をなくすため、国際的な基準に基づき製品を適正な価格で買い取る仕組みが導入されました。これにより、大人の労働者に適切な賃金が支払われ、子どもが労働ではなく教育を受けられる環境が整えられています。
問2	答え 1 プラスチックは自然分解されるまでに膨大な時間を要するため、レジ袋の削減やマイボトルの使用など、プラスチックごみを減らす行動が求められている	海洋プラスチックごみの最大の問題は、多くの製品が自然分解されるまでに数百年単位の時間を要し、海洋生態系に長期的な悪影響を及ぼし続ける点にあります。例えば、ペットボトルは約400年、釣り糸は約600年もの間、海の中に残り続けるとされています。この問題を解決するためには、排出された後の回収だけでなく、レジ袋の有料化や使い捨て容器の使用抑制など、社会全体でプラスチックごみを減らすライフスタイルへの転換が必要です。
問3	答え 1 二酸化炭素などの排出が増えることで、地表からの熱が宇宙へ逃げにくくなり、地球全体の気温が上昇する現象を指す。	二酸化炭素などの温室効果ガスが濃度を増すことで、地表から放出される熱がさげざられ、大気が過剰に暖まるのが地球温暖化のメカニズムです。この問題は一国で解決できるものではないため、主要国首脳会議（サミット）や気候変動枠組条約締約国会議（COP）といった国際会議において、排出削減に向けた具体的な議論が続けられています。
問4	答え 1 石炭や石油などの化石燃料を燃焼させる際に、大量の二酸化炭素を排出すること	火力発電は、化石燃料を燃やして得られる熱エネルギーを利用して発電します。この燃焼の過程で、地球温暖化の主な原因となる温室効果ガスの二酸化炭素が大量に発生します。電力の需要に合わせて出力を細かく調整できるという運用上のメリットがある反面、脱炭素社会の実現に向けた排出削減が国際的な課題となっています。
問5	答え 1 温室効果ガス	二酸化炭素やメタンなどは、太陽から届いた熱が地表から放射される際に、その一部を吸収して再び地表に戻す「温室効果」という働きを持っています。これらの気体が過剰に増えることで地球全体の平均気温が上昇する現象を地球温暖化と呼び、現代における深刻な地球環境問題の一つとなっています。
問6	答え 1 限られた資源を有効活用し、環境負荷を抑えた持続可能な社会を目指すため。	携帯電話やパソコンから資源を回収するプロジェクトは、単なる材料調達だけでなく、リサイクルへの意識を高める目的があります。金などの貴重な資源を再利用することは、自然界からの過度な採掘を抑制し、廃棄物を減らすことにつながります。これは「持続可能な開発目標（SDGs）」にも通じる、資源循環型社会を構築するための重要な取り組みです。
問7	答え 1 資源価格の高騰や工業化の進展により、一部の発展途上国が急速な経済成長を遂げた一方で、開発が遅れた後発開発途上国との差が広がったため。	かつて発展途上国は一様に経済的に貧しい状態にありましたが、産油国や新興工業経済地域の成長により、発展途上国という枠組みの中での二極化が進みました。これにより、一律の支援ではなく、各国の経済状況に応じたきめ細かな国際協力が必要とされるようになってきました。
問8	答え 2 京都議定書は先進国にのみ削減義務を課していたが、パリ協定では発展途上国を含む全ての締約国が削減目標の作成・維持を義務付けられた。	地球温暖化は世界全体の課題であり、近年では中国やインドなどの新興国の排出量が増大していることから、従来の先進国主導の枠組みでは限界が生じていました。そのため、2015年に合意されたパリ協定では、全ての参加国が自国の目標を掲げて取り組むことが合意され、地球規模での対策が強化されました。